

「すこやかな輪を広げるために」

第一小学校校区コミュニティ主事 中里

文さん なかさと ふみ



私は、現在須恵第一小学校区内の「すこやかコミュニティ」事務局で活動をさせていただいております。コミュニティでは、地域住民の生涯学習社会の構築、子どもたちの健全育成、人間教育のためのネットワークづくりなどを目標に活動しています。

主な活動内容は、ボランティア派遣事業・すこやか秋まつり・講演会・防犯週間の取り組み・軽スポーツ大会・アンビシャス広場等です。どの事業も企画段階からさまざまな分野の方々にアドバイスをいただいたり、実際の運営にあたってはたくさんの方の協力を得たりなど、地域の方々

の協力なしでは成立しません。同時に、そのことが地域の結束力を高めることに役立ってくればと思っています。

中でも「すこやか秋まつり」は校区最大の行事です。「一小まつり」という学校行事から始まったのですが、今では、地域・学校・家庭を結ぶ一大イベントに成長しました。

さらに、本年度は、今までとは違った地域のコミュニケーションの場としてのステージ利用など、よりいっそう地域に根ざす方向へと向かっています。

約半年におよぶ準備期間は、区長さん、分館主事さん、各種団体の代

表の方、学校関係者の方など、さまざまな方との協働作業の連続です。また、ボランティア派遣事業やアンビシャス広場では、地域の名人さん方と交流することもでき、これらのいろいろな事業を通してたくさんの方々と知り合つことができました。自分自身のコミュニティの輪も広がり、いろいろなと勉強させてもらっています。

今後多くの方との輪を広げながら、また、地域の方々への橋渡しになれるような事務局でありたいと思っています。

キーワードは「あいさつ」「クリーン」

第二小学校校長 山野 芳朗さん やまの よしろう



子どもの健全育成には家庭・地域・学校の連携・協力が不可欠なことはもはや言うまでもありません。須恵町においては、校区コミュニティ事業を始めとする学社連携・融合教育の実践が、家庭・地域の教育力の向上と学校教育の充実に大きな

役割を果たしていることは皆様もご承知のことです。

さて、第二小学校の「いきいきコミュニティ」でも「出会い、ふれあい、学び合い」の場（活動）を通してお互いが知り合いとなることにより、子どもの健全育成と住みよい地

域づくりに努めています。そして、この目標達成のためのスローガンが「明るいあいさつにあふれ、ゴミのないクリーンな地域にしよう」です。

具体的には、朝、子どもたちが近所の皆さんと「おはよう」と声を掛け合い、ゴミのない通学路を

元気よく登校する姿をイメージしています。「なんだ、そんな簡単なことか」と思われる方もたくさんおられるでしょうが、残念ながら多くの地域でこんな簡単なことが失われつつあるのが現代社会の現実なのではないのでしょうか。

らの近所の人とのつながりの重要性が再認識されました。しかし、現実的には一昔前のお醤油の貸し借りが当たり前のようであるような近所づきあいを取り戻すのは、意外に大変なことです。そこで、「いきいきコミュニティ」では学校とも連携して「あいさつ」と「クリーン」をキーワードとしていろいろ活動を行っています。

この精神を「向う三軒両隣」から見直し、実践してみたいかがでしようか。緊急時に限らず、日常的な防犯の意味からも「あいさつ」と「クリーン」は大きな効果があると言われています。

まずは身近なところからあいさつを交わして顔見知りとなり、いい意味での縄張り意識（当事者意識）をもって近所の美化活動などを協力し合えるようになれば、このことが子どもの健全育成とすみよい地域づくりの実現につながっていくのではないのでしょうか。



「子ども達とふれあおう」

第三小学校校区コミュニティ主事 木原

敦子さん きはら あつこ

子育てを終えた私が、小学生と関わるようになって3年目に入ります。最初は関わり方がわからないという、学校内にコミュニティ事務局があることで「自分は教師でもないのに」という気持ちに先にたち随分悩みました。

でも今では、子どもたちから元気を貰うくらい楽しくふれあっています。そんな中で感じたことが二つあります。一つは子どもたちが挨拶をしないことです。

「たかが挨拶」と、思われるでしょうが、挨拶というのは人と人とのコミュニケーションの第一歩ではないでしょうか。

知らない人にいきなり話をしたり

はしないはずですが、また、人から言われてするものでもありません。自然に言えるように身に付けるべきです。

挨拶をしない子どもたちに「挨拶をせんね」とか言っても身につくものではないのです。やはり親や周りの大人たちが普段から誰にでも挨拶をしていけば、「言わずとも」子どもたちは出来るでしょう。親し

き仲にも礼儀あります。もつと、挨拶の大切さを子どもたちに教えないければならないと感じています。もう一つは、子どもにも自由がないことです。

教育も大切だと思いますが、基本的な生活習慣も大切です。大人になって社会へ出たら、仕事は覚えても人間関係がうまくいかず、長続きしないという今時の若者の話を多く聞きます。

今の子どもたちも友達をつくれず一人遊びをする子。大人としか遊べない子。人にはいやなことを言っているのに自分が言われると泣いてしまつ打たれ弱い子。自分さえよければいい子。どれをとっても子ども同士のかかわりが少なくコミュニケーションが取れていないのです。

遊べる子はいい方ですが、遊ぶ暇もなく子ども自身が忙しくて、子どもの社会など今はありません。ケンカもできないくらい管理されています。これでは親子のふれあいや地域の人たちとのふれあいなどできないと思うのです。人間的、ひとりでは生きて行けません。何らかの形で人に迷惑をかけた時、他人の手を借りて生きていることを、私たちが大人が伝えていかなければならないと思うのです。

子どもたちにとって本当に必要なことは何なのか考えるべきではないのでしょうか。